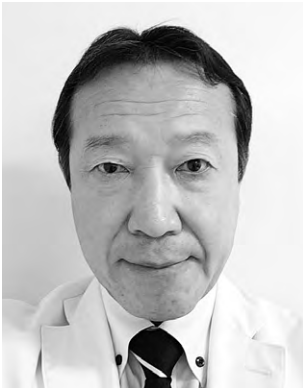


## ご挨拶

---



埼玉乳がんケア・サポートグループ 理事長  
さいたま赤十字病院 乳腺科部長

**櫻井 孝志**

---

本日はご多忙の折、第8回埼玉乳がんシンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございます。演者・司会の先生方をはじめ、ご準備いただきました各製薬会社様、運営いただきましたサンプラネット様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

埼玉乳がんシンポジウムですが、平成22(2010)年2月20日に第1回目が開催され、その後も黒住昌史先生(現：亀田京橋クリニック)と各回の当番世話人の先生が中心となり、隔年で開催してまいりました。「埼玉乳がん臨床研究グループ」の主催で行ってききましたが、令和元年(2018)年7月よりグループ名を「埼玉乳がんケア・サポートグループ」に変更し、埼玉県内乳がん診療の向上のため、現在まで継続しております。

コロナウィルス感染流行前までは、大宮ソニックシティ国際会議室で現地開催しておりましたが、2021年の第6回以降は確実な開催、また多くの方にご参加いただきたくweb形式で開催しており、今回も同様といたしました。

第1回から参加しておりますが、乳がん領域を含め、近年の薬物療法の進歩は目覚ましく、遺伝情報に基づいた診断・治療もかなり臨床応用されております。治療の個別化が進むとともに、単独施設では対応が難しいことも出てきており、治療格差が生じる懸念も持たれます。政策では地域連携が謳われておりますが、各医療機関は診断・治療において出来ること・出来ないことを整理し、近隣の医療機関と連携して効率化を図る必要があります。

上述いたしました通り、医療関係者は常に勉強が必要ですが、「埼玉乳がんケア・サポートグループ」は人材育成・教育を活動の一つとしております。勉強会・講演会も積極的に行っておりますが、日常診療の多忙さから参加ができない方も多数おられます。埼玉乳がんシンポジウムのように、多くの講演を一度に聴講できる機会は大変貴重で、学会でも中々得難いものと思われれます。

本日の講演は明日からの診療にすぐ役立つものばかりで、参加いただきました方々にとって、実りあるものになることを願ってやみません。

## NPO 法人埼玉乳がんケア・サポートグループ (旧：埼玉乳がん臨床研究グループ (SBCCSG)) の組織と運営について

---



事務局 (二宮病院)  
二宮 淳

前身であります埼玉乳がん臨床研究グループ (Saitama Breast Cancer Clinical Study Group: SBCCSG) は、平成11年に活動を開始し、平成18年に特定非営利活動法人として法人格を取得し、県内39施設61名の医師が参加するまでになりました。しかし啓蒙活動や人材育成が充実する一方で、臨床研究を取りまく状況は年々厳しさを増し、グループの活動内容を見直さないと、製薬会社様からの協力も難しい状況となりました。そのため令和元年(2018年)の理事会・総会における議論を経て、グループ名を「NPO 法人埼玉乳がんケア・サポートグループ」へ変更し、活動内容も①一般市民への啓発活動、②人材の育成、に絞ることとなりました。ただ前身からの理念「埼玉県内から乳がんで苦しむ人をなくす」に変わりはなく、「乳がん市民フォーラム」「市民公開講座」など一般の方への啓発活動、「症例検討会」や「多職種合同会議」を通じて参加医師の教育や最新情報の共有、治療方針の均質化は、以前にもまして積極的に取り組みたいと考えております。

具体的な運営内容は、理事長の櫻井孝志先生を中心に7名の副理事長(小島誠人先生、松本広志先生、山田博文先生、永井成勲先生、君塚圭先生、小西寿一郎先生、二宮(事務局長)による運営会議で決定し、本会の活性化に努めております。

以下、役員・特別会員名簿です。

NPO 法人埼玉乳がんケア・サポートグループ役員・特別会員名簿（令和7年2月現在）

役名	氏名	所属
理事長	櫻井 孝志	さいたま赤十字病院乳腺科部長
副理事長	小島 誠人	獨協医科大学埼玉医療センター乳腺科准教授
副理事長	松本 広志	埼玉県立がんセンター乳腺外科科長兼部長
副理事長	山田 博文	川越ブレストクリニック院長
副理事長	永井 成勲	埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科科長兼部長
副理事長	君塚 圭	春日部市立医療センター乳腺外科部長
副理事長	小西寿一郎	国立病院機構埼玉病院 乳腺センター部長
副理事長、事務局	二宮 淳	移山会二宮病院院長
理事	井上 賢一	済生会 内牧クリニック院長
理事	甲斐 敏弘	新都心レディースクリニック院長
理事	大久保雄彦	戸田中央総合病院乳腺外科部長
理事	蓬原 一茂	自治医科大学附属さいたま医療センター助教
理事	中野 聡子	川口市立医療センター乳腺外科部長
理事	山下 純男	こくさいじクリニック院長
理事	黒田 徹	赤心堂病院外科診療部長、乳腺科科長
理事	三宅 洋	春日部市立医療センター病院事業管理者
理事	秦 怜志	豊仁会三井病院院長
理事	佐伯 俊昭	埼玉医科大学国際医療センター病院長
理事	大崎 昭彦	埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科教授
理事	守屋 智之	すぎうら乳腺消化器クリニック院長
理事	児玉ひとみ	埼玉石心会病院副院長
理事	三浦 弘善	越谷市立病院がん治療センター長
理事	北條 隆	埼玉医科大学総合医療センターブレストケア科教授
理事	本間 恵	八潮中央総合病院院長
理事	小林 心	さいたま赤十字病院腫瘍内科部長
監事	藤井 博文	自治医科大学臨床腫瘍科教授
監事	武井 寛幸	日本医科大学乳腺科教授
特任理事	齋藤 毅	さいたま赤十字病院
名誉理事長	田部井敏夫	上尾中央総合病院、顕正会 蓮田病院
名誉理事長	黒住 昌史	亀田京橋クリニック乳腺病理部長 さいたま赤十字病院病理診断科顧問
顧問	末益 公人	アルシェクリニック、たけうちクリニック

## 参加者・発表者／司会の方々へのご案内

---

- 1、本会はWEB開催となります。(現地での開催はいたしませんのでご注意ください)
- 2、参加費は無料です。  
※当日WEBライブ配信を行いますので視聴ご希望の方は下記QRコードからお申し込みください。  
お申し込みの方には確認させていただき視聴用URLをお送りいたします。  
URL送信に時間がかかる可能性がございますので事前にお申し込みください。
- 3、発表者、司会の方へ  
発表者の方、司会の方もリモートにてオンライン参加いただけます。  
リモートでのご参加はZoomを利用いたします。  
参加方法の詳細につきましては運営事務局からセミナー企業ご担当者様にご案内いたします。

### 問い合わせ先

#### 事務局

二宮病院  
二宮 淳  
〒340-0056 埼玉県草加市新栄2丁目22番地23  
TEL：048-941-2223  
E-mail：jninomiya@grape.plala.or.jp

#### 運営事務局

株式会社サンプラネット メディカルコンベンションユニット  
担当：原  
〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-10 住友成泉小石川ビル6F  
TEL：03-5940-2614 FAX：03-3942-6396  
E-mail：sbcs8@sunpla-mcv.com



<https://ws.formzu.net/dist/S25844422/>

WEB視聴  
申し込みQRコード

## プログラム

---

- 11:00～11:30 Opening Session 1  
「最近の乳癌薬物療法療法について」  
二宮 淳 (二宮病院 院長)
- 11:30～12:00 Opening Session 2  
司会：二宮 淳 (二宮病院 院長)  
「乳がん薬物療法におけるアピランスケアの実際」  
小島真奈美 (埼玉医科大学国際医療センター 看護部  
がん看護専門看護師 乳がん看護認定看護師)
- 12:00～12:30 休憩
- 12:30～13:20 セミナー 1  
司会：永井 成勲 (埼玉県立がんセンター・乳腺腫瘍内科 科長兼部長)  
「HR陽性HER2陰性進行再発乳癌に対する新たな治療戦略」  
服部 正也 (愛知県がんセンター 乳腺科部 乳腺診療科医長)  
(共催：第一三共株式会社)
- 13:20～13:30 休憩
- 13:30～14:20 セミナー 2  
司会：小林 心 (さいたま赤十字病院 腫瘍内科部長)  
「進行・再発トリプルネガティブ乳癌の新たな治療戦略」  
柏木伸一郎 (公立大学法人 大阪公立大学大学院医学研究科 乳腺外科学講座 教授)  
(共催：中外製薬株式会社)
- 14:20～14:30 休憩
- 14:30～15:20 セミナー 3  
司会：北條 隆 (埼玉医科大学総合医療センター プレストケア科教授)  
「オンコタイプDXが変えたHR陽性、HER2陰性早期乳がんの周術期治療」  
大西 達也 (国立がん研究センター東病院 乳腺外科 科長)  
(共催：エグザクトサイエンス株式会社)
- 15:20～15:30 休憩
- 15:30～16:20 セミナー 4  
司会：大崎 昭彦 (埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科 教授)  
「Luminal MBC —新たな戦略の幕開け—」  
有賀 智之 (東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 総合外科学分野 教授)  
(共催：アストラゼネカ株式会社)
- 16:20～16:30 休憩
- 16:30～17:20 セミナー 5  
司会：黒田 徹 (赤心堂病院 乳腺外科部長)  
「HR陽性HER2陰性乳癌治療の進歩とページニオの位置づけ」  
井口 雅史 (金沢医科大学 乳腺外科 准教授  
金沢医科大学病院 乳腺センター長)  
(共催：日本イーライリリー株式会社)
- 17:20～17:30 休憩

17:30～18:20 セミナー6

司会：櫻井 孝志 (さいたま赤十字病院 乳腺科部長)

「CDK4/6阻害剤が見せた再発乳がん治療の景色」

増田 紘子 (東京都立病院機構がん・感染症センター  
都立駒込病院 外科(乳腺) 医長)

(共催：ファイザー株式会社)

18:20～18:40 Closing Remark

櫻井 孝志 (埼玉乳がんケア・サポートグループ 理事長  
さいたま赤十字病院 乳腺科部長)

## Opening Session



### 最近の乳癌薬物療法療法について

二宮病院 院長  
二宮 淳

---

#### 略 歴

平成5年	群馬大学医学部卒業
同年	群馬大学第二外科入局
平成14年~19年	埼玉県立がんセンター乳腺外科
現在	二宮病院 獨協医科大学埼玉医療センター乳腺科 (非常勤)

日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医



## 司会の言葉 / 抄 録

冒頭の挨拶でも述べさせていただきましたが、第8回埼玉乳がんシンポジウムの開催にあたり、関係の皆様、ご司会・ご講演いただきます先生方には、多大なご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

Opening Session 1ですが、最近の乳癌薬物療法について、追加承認、新規薬剤の全体における位置づけをお話したいと思います。第7回でもお話ししましたが、術後補助療法における追加承認で、具体的な薬剤として、2020年8月のT-DM1、2021年12月 Abemaciclib、2022年8月 Orapalib、2022年9月 Pembrolizumab、2022年11月 S-1 と挙げられ、再発乳癌の新規薬剤として、2024年3月 AKT 阻害剤 (Capivasertib)、2024年9月抗 TROP-2抗体トポイソメラーゼI阻害剤複合体 (Sacituzumab Govitecan)、2024年12月抗 TROP-2抗体トポイソメラーゼI阻害剤複合体 (Datopotamab Deruxtecan) が挙げられます。

この後、各セミナーをご聴講いただくことで、より詳しい内容を知ることができますが、まずはこのセッションで俯瞰していただき、問題点を見つけていただければありがたいです。

そして、これら薬物療法には特徴的な副作用があり、診療科横断的な対応が求められますが、全体に共通する課題として、アピアランスケアがあります。患者様が社会とのつながりを持ち続けることが、治療の継続にもつながり大変重要な問題です。

Opening session 2ではこの問題に対し、埼玉医科大学国際医療センター 乳がん看護認定看護師 小島真奈美様よりご講演いただきます。明日からでも皆様のご施設で取り組める内容と思われ、大変楽しみにしております。

## Opening Session 2

---



### 乳がん薬物療法における アピアランスケアの実際

埼玉医科大学国際医療センター 看護部  
がん看護専門看護師 乳がん看護認定看護師

小島真奈美

---

#### 略 歴

- 1993年 3月 毛呂病院附属看護専門学校卒業
- 1993年 4月 埼玉医科大学病院 消化器・一般外科病棟
- 2002年 4月 同施設 消化器・一般外科・小児外科外来
- 2007年 4月 埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター外来
- 2007年 7月 日本看護協会 乳がん看護認定看護師取得
- 2022年 8月 埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科・婦人腫瘍科病棟
- 2024年 3月 埼玉医科大学大学院看護学研究科 修了 修士(看護学)取得
- 2024年 12月 日本看護協会 がん看護専門看護師取得

#### 認定資格：

遺伝性腫瘍コーディネーター、がんゲノム医療コーディネーター、  
認定がん生殖・医療ナビゲーター、認定ヨガセラピスト

#### 所属学会・協会・研究会：

- 日本乳癌学会
- 日本がん看護学会
- 日本乳がん看護研究会(世話人)
- 埼玉breast care nursing研究会(世話人)
- 日本がん・生殖学会、遺伝性腫瘍学会
- 日本がんサポートケア学会
- 日本ヨガメディカル協会

## 抄 録

乳がんの薬物療法は革新的進歩を遂げ、乳がん患者がおかれている状況も刻々と変化している。乳がん患者が受ける薬物療法は、サブタイプにより治療内容が決定し、治療を継続的に行いながら長期的に過ごすことをめざしている。

薬物療法を受ける乳がん患者は、これまで薬物療法の副作用として嘔気や嘔吐といった身体症状の苦痛の割合が高かったが、支持療法の発展からいまや社会で生活していくため、髪やまつげの脱毛、爪の変化といった外見の変化に苦痛を感じる患者も少なくない。これは、乳がんの罹患年齢が社会生活で重要な役割を担う45歳以上の患者が多いことが影響していると考えられる。今回は、薬物療法の副作用で外見の変化に苦痛を抱える乳がん患者へのアピアランスケアについて自施設の取り組みを報告する。



# セミナー *1*.

共催：第一三共株式会社

## セミナー 1

---



司 会

埼玉県立がんセンター・乳腺腫瘍内科 科長兼部長

永井 成勲

---

### 略 歴

#### 学歴

- 1995年 和歌山県立医科大学医学部卒業  
2005年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了

#### 職歴

- 1995年 東京都立駒込病院 外科研修医  
1997年 同・外科専門臨床研修医  
2000年 東京都立駒込病院病理科・医員  
2005年 東京大学医科学研究所附属病院外科・医員  
2007年 自治医科大学臨床腫瘍科・病院助教  
2008年 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科・医長  
2011年 同・副部長  
2024年 同・科長兼部長

#### 所属学会・資格・役職

- 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医、評議員  
日本乳癌学会 診療ガイドライン薬物療法小委員会委員、評議員  
がん治療認定医機構 がん治療認定医  
日本外科学会 認定登録医  
日本癌治療学会、日本免疫学会、米国臨床腫瘍学会、欧州臨床腫瘍学会

## 司会の言葉

本セミナーでは、「HR陽性HER2陰性進行再発乳癌に対する新たな治療戦略」について、愛知県がんセンター乳癌科の服部正也先生にご講演いただきます。近年、HR陽性HER2陰性進行再発乳癌の治療は大きな変革を迎えています。従来の治療アプローチに加え、2023年のT-DXdのHER2低発現適応拡大、2024年のDato-DXdの承認により、新たな治療選択肢が加わりました。これらADC (Antibody Drug Conjugate) の適切な治療判断は、これまで以上に重要になっています。

本日は、最新のエビデンスに基づき、ADCの有効性や実臨床での活用方法を詳しく考察していただきます。また、新しい治療が登場する中で、単に選択肢を増やすだけでなく、それらを「いかに適切に運用し、最大限に活用するか」についても議論を深めたいと思います。特に、迅速な医療現場への導入、有害事象の管理は、患者さんの予後を安全に延長するために必要な視点です。本講演を通じて、これらのポイントについて具体的な知見を得ていただければ幸いです。

また、チーム医療を基盤とし、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供することの重要性についても改めて考える機会としたいと思います。

本日の講演が、日々の診療における治療選択の一助となることを願っています。



## HR陽性HER2陰性進行再発乳癌に対する 新たな治療戦略

愛知県がんセンター 乳腺科部 乳腺診療科医長  
服部 正也

### 略 歴

#### 最終学歴

名古屋大学 医学部卒業 H12年(学部卒業)

#### 勤務歴

H14年 3月	名古屋大学医学部附属病院 臨床研修センター修了
H14年 4月～H18年3月	安城更生病院 外科医員
H18年 4月～H20年3月	癌研有明病院 乳腺科シニアレジデント
H20年 4月～H22年3月	癌研有明病院 化学療法科シニアレジデント
H22年 4月～H30年9月	愛知県がんセンター中央病院 乳腺科部医長
H30年10月～R 1年9月	シカゴ大学医学部 Biologic Science Division 客員研究員
R 1年10月～現在	愛知県がんセンター 乳腺科部医長

#### 専門分野

外科学、乳腺腫瘍学、臨床腫瘍学

#### 所属学会等

日本外科学会、日本乳癌学会、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、AACR、ASCO

- 日本外科学会：専門医 指導医
- 日本乳癌学会：専門医 指導医 評議員

#### 主な研究内容・著書・論文等

- The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for systemic treatment of breast cancer, 2018 edition. Shimoi T, Nagai SE, Yoshinami T, Takahashi M, Arioka H, Ishihara M, Kikawa Y, Koizumi K, Kondo N, Sagara Y, Takada M, Takano T, Tsurutani J, Naito Y, Nakamura R, [Hattori M](#), Hara F, Hayashi N, Mizuno T, Miyashita M, Yamashita N, Yamanaka T, Saji S, Iwata H, Toyama T. Breast Cancer. 2020 Apr 2. doi: 10.1007/s12282-020-01085-0. [Epub ahead of print]
- Risks and benefits of bevacizumab combined with chemotherapy for advanced or metastatic breast cancer: a meta-analysis of randomized controlled trials. Miyashita M, [Hattori M](#), Takano T, Toyama T, Iwata H. Breast Cancer. 2020 Jan 23. doi: 10.1007/s12282-020-01052-9. [Epub ahead of print]
- Circulating tumor cells detection in tumor draining vein of breast cancer patients. [Hattori M](#), Nakanishi H, Yoshimura M, Iwase M, Yoshimura A, Adachi Y, Gondo N, Kotani H, Sawaki M, Fujita N, Yatabe Y, Iwata H. Sci Rep. 2019 Dec 3;9 (1):18195. doi: 10.1038/s41598-019-54839-y
- Terada M, Yoshimura A, Sawaki M, [Hattori M](#), Naomi G, Kotani H, Adachi Y, Iwase M, Kataoka A, Sugino K, Mori M, Horisawa N, Ozaki Y, Iwata H. Patient-reported outcomes and objective assessments with arm measurement and bioimpedance analysis for lymphedema among breast cancer survivors. Breast Cancer Res Treat. 2019 Sep 18. doi: 10.1007/s10549-019-05443-1.
- Iwase M, [Hattori M](#), Sawaki M, Yoshimura A, Kotani H, Gondo N, Adachi Y, Kataoka A, Onishi S, Sugino K, Horisawa N, Mori M, Terada M, Iwata H. Presence of small residual malignant lesions in pathologic complete response after neo-adjuvant chemotherapy in patients with breast cancer. Breast J. 2019 Jul 18. doi: 10.1111/tbj.13473.
- [Hattori M](#), Hagiwara S, Kotani H, Tatematsu M, Tachi M, Hijioaka S, Shimizu J, Andoh M, Mizuno Y, Sawaki M, Yoshimura A, Gondo N, Adachi Y, Yoshimura K, Iwata H. A single-arm, phase 2 study of steroid-containing mouthwash for the prevention of everolimus-associated stomatitis in multiple tumor types. Int J Clin Oncol. 2019 Oct;24 (10):1320-1327. doi: 10.1007/s10147-019-01476-0. Epub 2019 Jun 1.
- Onishi S, Sawaki M, Ishiguro J, Kataoka A, Iwase M, Sugino K, Adachi Y, Gondo N, Kotani H, Yoshimura A, [Hattori M](#), Matsuo K, Yatabe Y, Iwata H. The overall survival of breast cancer patients without adjuvant therapy. Surg Today. 2019 Jul;49 (7):610-620. doi: 10.1007/s00595-019-01775-z. Epub 2019 Feb 7
- Kataoka A, Sawaki M, Okumura S, Onishi S, Iwase M, Sugino K, Ishiguro J, Gondo N, Kotani H, Yoshimura A, [Hattori M](#), Sasaki E, Yatabe Y, Yoshimura K, Omi K, Iwata H. Prediction of pathological margin status using preoperative contrast-enhanced MRI in patients with early breast cancer who underwent skin-sparing mastectomy. Breast J. 2019 Mar;25 (2):202-206. doi: 10.1111/tbj.13194. Epub 2019 Jan 30.
- Noguchi E, Tamura K, [Hattori M](#), Horiguchi J, Sato N, Kanatani K, Matsunaga K, Iwata H, Fujiwara Y. Trastuzumab emtansine plus pertuzumab in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer: a phase Ib study. Breast Cancer. 2019 Jan;26 (1):39-46. doi: 10.1007/s12282-018-0887-z.
- Sagara Y, Takada M, Ohi Y, Ohtani S, Kurozumi S, Inoue K, Kosaka Y, [Hattori M](#), Yamashita T, Takao S, Sato N, Iwata H, Kurozumi M, Toi M. Effectiveness of neo-adjuvant systemic therapy with trastuzumab for basal HER2 type breast cancer: results from retrospective cohort study of Japan Breast Cancer Research Group (JBCRG)-C03. Breast Cancer Res Treat. 2018 Oct;171 (3):675-683. doi: 10.1007/s10549-018-4873-0.
- Toyama T, Yoshimura A, Hayashi T, Kobayashi N, Saito K, Tsuneizumi M, Sawaki M, [Hattori M](#), Nakada T, Yokota I, Iwata H. A randomized phase II study evaluating pyridoxine for the prevention of hand-foot syndrome associated with capecitabine therapy for advanced or metastatic breast cancer. Breast Cancer. 2018 Nov;25 (6):729-735. doi: 10.1007/s12282-018-0879-z.
- [Hattori M](#), Iwata H. Advances in treatment and care in metastatic breast cancer (MBC): are there MBC patients who are curable? Chin Clin Oncol. 2018 Jun;7 (3):23. doi: 10.21037/cco.2018.05.01.
- Yoshimura A, Okumura S, Sawaki M, [Hattori M](#), Ishiguro J, Adachi Y, Kotani H, Gondo N, Kataoka A, Iwase M, Onishi S, Sugino K, Terada M, Horisawa N, Mori M, Takaiso N, Hyodo I, Iwata H. Feasibility study of contralateral risk-reducing mastectomy with breast reconstruction for breast cancer patients with BRCA mutations in Japan. Breast Cancer. 2018 Sep;25 (5):539-546. doi: 10.1007/s12282-018-0850-z.
- [Hattori M](#), Ishiguro H, Masuda N, Yoshimura A, Ohtani S, Yasojima H, Morita S, Ohno S, Iwata H. Phase I dose-finding study of eribulin and capecitabine for metastatic breast cancer: JBCRG-18 cape study. Breast Cancer. 2018 Jan;25 (1):108-117. doi: 10.1007/s12282-017-0798-4. Kawaguchi H, Masuda N, Nakayama T, Aogi K, Anan K, Ito Y, Ohtani S, Sato N, Saji S, Tokunaga E, Nakamura S, Hasegawa Y, [Hattori M](#), Fujisawa T, Morita S, Yamaguchi M, Yamashita T, Yamamoto Y, Ohno S, Toi M. Outcomes of fulvestrant therapy among Japanese women with advanced breast cancer: a retrospective multicenter cohort study (JBCRG-C06; Safari). Breast Cancer Res Treat. 2017 Jun;163 (3):545-554. doi: 10.1007/s10549-017-4212-x.



## 抄 録

ホルモン受容体（HR）陽性HER2陰性進行再発乳癌における治療戦略として、内分泌療法を基盤とした分子標的治療薬との併用から始まり、それらの治療後に進行した際には化学療法の導入が一般的である。化学療法の選択肢として、既存の殺細胞性の抗がん剤に加えて最近では抗体薬物複合体が新たな治療選択肢として導入されている。本邦において、2023年3月にDESTINY-Breast 04試験の結果により、HER2低発現の概念と共にHR陽性HER2陰性進行再発乳癌の一部に対してT-DXdが適応拡大され、また、2024年12月にはTROPION-Breast 01試験の結果により、Dato-DXdがHR陽性HER2陰性進行再発乳癌の治療選択肢となった。

Dato-DXdはペイロードとして、T-DXdと同様にトポイソメラーゼI阻害剤のDXdを搭載した抗TROP2抗体薬物複合体であり、治療歴のあるHR陽性HER2陰性進行再発乳癌を対象に行われたTROPION-Breast 01試験で、既存の殺細胞性の抗がん剤による主治医選択治療群との比較により主要評価項目であるPFSの統計学的有意な延長を認め（6.9カ月 vs. 4.9カ月、ハザード比0.63）、Grade 3以上の毒性発現率は主治医選択治療群と比し低い結果であった（21% vs. 45%）。

本セミナーでは、TROPION-Breast 01試験の結果によりHR陽性HER2陰性進行再発乳癌の新たな治療選択肢となったDato-DXdを中心に、これからのHR陽性HER2陰性進行再発乳癌の治療戦略について考察したい。



## セミナー2.

共催：中外製薬株式会社

## セミナー 2

---



司会

さいたま赤十字病院 腫瘍内科部長

小林 心

---

### 略 歴

#### 学歴

2005年3月 新潟大学医学部卒業

#### 職歴

2005年4月～2007年3月 NTT東日本関東病院 外科系レジデントとして初期臨床研修

2007年4月 癌研有明病院 化学療法科レジデント

2013年4月 がん研有明病院 乳腺内科 医員

2014年9月 がん研有明病院 乳腺内科 副医長

2016年9月 がん研有明病院 乳腺内科 医長

2023年4月 さいたま赤十字病院 腫瘍内科 副部長

2024年4月 さいたま赤十字病院 腫瘍内科 部長

#### 所属学会

米国臨床腫瘍学会 (ASCO)

欧州臨床腫瘍学会 (ESMO)

日本内科学会

日本臨床腫瘍学会 協議員

日本乳癌学会 評議員

#### 資格

2008年 内科認定医

2013年 がん薬物療法専門医

2014年 乳腺専門医

2019年 乳腺指導医、日本臨床腫瘍学会指導医

## 司会の言葉

近年、転移再発乳癌の治療薬は飛躍的な進歩を遂げていますが、トリプルネガティブ乳癌 (TNBC) は依然として予後不良であり、Unmet medical needsの一つとして、日々新たな治療法が模索されています。

ここ数年、免疫チェックポイント阻害薬、抗体薬物複合体 (ADC)、新規PARP阻害薬などが本邦で新たに承認され、従来の化学療法や分子標的薬に加え、有効性の期待できるTNBCの治療選択肢が増えてきました。しかし、PD-L1陰性TNBCや免疫療法耐性症例に対する治療戦略は依然として課題であり、耐性機序を踏まえた治療法の開発が必要であるといえます。複数存在するADCを含む治療ストラテジーの確立等、臨床現場でもニーズの多い分野といえるでしょう。

また、近年、腫瘍の免疫微小環境に着目した研究が進み、腫瘍浸潤リンパ球 (TILs) の割合やマクロファージの極性変化が治療応答性の予測因子となる可能性が示唆されています。さらに、腸内細菌叢が抗腫瘍免疫に与える影響や、新規免疫刺激戦略も研究が進んでおり、今後の臨床応用が期待されます。

トリプルネガティブ乳癌の治療戦略は基礎から臨床まで幅広いですが、本セミナーでは、これらの知見を垣間見つつ、転移再発TNBCの治療におけるエビデンスの整理と今後の展望について、知識を共有できればと思います。



## 進行・再発トリプルネガティブ乳癌の 新たな治療戦略

公立大学法人 大阪公立大学大学院医学研究科 乳腺外科学講座 教授  
柏木伸一郎

### 略 歴

- 2002. 3 埼玉医科大学医学部医学科 卒業
- 2002. 4 大阪市立大学大学院医学研究科 腫瘍外科学 (第一外科) 入局
- 2007. 4 大阪市立大学大学院医学研究科 腫瘍外科学 大学院生
- 2011. 4 大阪市立大学大学院医学研究科 腫瘍外科学 後期臨床研究医
- 2012. 4 大阪市立大学大学院医学研究科 細胞情報学 特任助教
- 2012.10 大阪市立大学大学院医学研究科 腫瘍外科学 病院講師
- 2015. 4 大阪市立大学大学院医学研究科 腫瘍外科学 講師
- 2018. 4 大阪市立大学大学院医学研究科 乳腺・内分泌外科学 講師 (講座再編)
- 2022. 4 大阪公立大学大学院医学研究科 乳腺外科学 講師 (大学統合)
- 2023. 1 大阪公立大学大学院医学研究科 乳腺外科学 准教授
- 2023.10 大阪公立大学大学院医学研究科 乳腺外科学 教授

#### 【学位】

- 2012.3.31 博士 (医学) (大阪市立大学第5717号)
- "Advantages of Adjuvant Chemotherapy for Patients with Triple-negative Breast Cancer at Stage II: Usefulness of prognostic markers E-cadherin and Ki67"  
*Breast Cancer Res 30:R122, 2011*

#### 【資格】

- 日本外科学会 代議員・専門医・指導医
- 日本乳癌学会 評議員・乳腺専門医・指導医
- 日本癌治療学会 代議員・がん治療認定医
- 近畿外科学会 評議員

#### 【学会活動】

- 日本外科学会 倫理委員
- 日本外科学会 ダイバーシティ推進委員
- 日本乳癌学会 乳癌診療ガイドライン QoL・医療経済評価小委員会委員
- 日本乳癌学会 新規医療機器評価小委員会
- 日本乳癌学会 編集委員会 委員
- 日本乳腺甲状腺超音波医学会 (JABTS) 教育委員会 オブザーバー
- 日本乳腺甲状腺超音波医学会 (JABTS) インターベンション研究部会
- 日本乳腺甲状腺超音波医学会 (JABTS) 乳房超音波診断ガイドライン改訂小委員会

#### 【Editorial Board】

- 日本乳癌学会 Breast Cancer (Associated Editor), Frontier in Oncology, BMC Cancer, Life, Medicine, Cancers, Molecular Medicine Reports (Spandidos Publication), International Journal of Molecular Sciences (IJMS)

#### 【論文業績】

- 総数 311本 (筆頭/責任 206本, 共著 105本)
- 英文 188本 (筆頭/責任 120本, 共著 66本)
- 和文 123本 (筆頭/責任 86本, 共著 39本)

#### 【授賞歴】

- ① 2022. 6.30 日本乳癌学会 Breast Cancer Reviewer Award 2022
- ② 2021. 7. 1 日本乳癌学会 Breast Cancer Reviewer Award 2021
- ③ 2020.10. 9 日本乳癌学会 Breast Cancer Reviewer Award 2020
- ④ 2019.11.23 ESMO Asia 2019 Best Poster Award
- ⑤ 2016. 9.22 4<sup>th</sup> International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology (FACO), 19<sup>th</sup> Chinese Society of Clinical Oncology (CSCO) Annual Meeting Travel Award
- ⑥ 2015.10.29 第53回 日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞
- ⑦ 2013. 1.10 第58回 大阪市医学会長賞
- ⑧ 2011.10.27 第49回 日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞
- ⑨ 2011. 6.10 第33回 日本癌局所療法研究会 奨励賞
- ⑩ 2010. 8.26 第9回 アジア臨床腫瘍学会 Young Investigator's Award
- ⑪ 2008. 5.31 第183回近畿外科学会 優秀演題賞

#### 【競争的資金：研究責任者】

- ① 文部科学省科学研究費補助金 2023年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究C (Nos. 23K08035) 『薬剤修飾による腫瘍微小環境の動的変化から捉えた乳癌治療戦略の構築』
- ② 文部科学省科学研究費補助金 2020年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究C (Nos. 20K08938) 『免疫応答から捉えたトリプルネガティブ乳癌における全身反応および微小環境変化の検証』
- ③ 文部科学省科学研究費補助金 2017年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究C (Nos. 17K10559) 『トリプルネガティブ乳癌の悪性形質獲得に関わる微小環境制御の臨床的検証』
- ④ 文部科学省科学研究費補助金 2014年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究C (Nos. 26461957) 『トリプルネガティブ乳癌におけるEカドヘリン発現の分子機構の解明および臨床的意義』
- ⑤ 2014年度武田科学振興財団医学系研究奨励助成金 『トリプルネガティブ乳癌におけるE-cadherin発現の分子機構の解明および臨床的検証』
- ⑥ 公益財団法人大阪コミュニティ財団 2014年度助成事業 『トリプルネガティブ乳癌におけるE-cadherin発現の臨床的意義および分子機構の解明』

## 抄 録

進行・再発トリプルネガティブ乳癌（mTNBC）の治療戦略は、免疫療法（ICI）や抗体薬物複合体（ADC）の登場、PARP阻害薬などの分子標的薬の進展により新たな時代を迎えている。特に抗PD-L1抗体アテゾリズマブや抗PD-1抗体ペムブロリズマブなどのICIの登場は、TNBCの治療に革新をもたらした。さらに最近ではTROP2を標的としたADCであるサシツズマブゴビデカン（SG）の有用性がASCENT試験により示され、タキサン治療歴のあるmTNBCに対して使用可能となった。これにより治療選択肢が大幅に広がったものの、効果的な薬剤を有効に使用する治療戦略についてはこれからの臨床的課題とされている。そのため、バイオマーカー検索やリアルワールドデータ解析による新たな知見の創出に期待される。

一方でKEYNOTE-522試験の結果をもって、ハイリスク早期TNBCの周術期治療においてペムブロリズマブが使用されるようになった。しかしながら、周術期治療においてペムブロリズマブを用いた症例での再発後治療に関しては意見の分かれるところである。ICIにおいて抗PD-1抗体と抗PD-L1抗体では耐性機序が異なることも報告されており、周術期にペムブロリズマブを使用した症例では、再発治療としてアテゾリズマブを用いることが望ましいとも考えられる。これらの背景を証し、本講演では臨床・基礎的見地よりmTNBCに対する新たな治療戦略について概説したい。





## セミナー3.

共催：エグザクトサイエンス株式会社

## セミナー 3

---



司 会

埼玉医科大学総合医療センター ブレストケア科教授

北條 隆

---

### 略 歴

- 平成 6年 聖マリアンナ医科大学 卒業
- 平成 6年 慶應義塾大学外科学教室
- 平成 7年 大和市立病院 外科
- 平成 8年 川崎市立川崎病院 外科
- 平成 9年 慶應義塾大学外科学教室
- 平成11年 国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部
- 平成13年 慶應義塾大学外科学教室
- 平成14年 国立埼玉病院 外科
- 平成14年 国立病院機構東京医療センター 外科
- 平成18年 国立がん研究センター中央病院 乳腺外科
- 平成27年 国立がん研究センター東病院 乳腺外科
- 令和 元年 埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科

### 資格

- 日本外科学会 外科専門医
- 日本乳がん学会 乳腺専門医
- 日本癌治療認定医機構 がん治療認定医

### 所属学会

日本外科学会、日本癌治療学会、日本乳癌学会、日本癌学会、日本臨床外科学会

## 司会の言葉

乳癌の手術後に化学療法を行うことで予後は改善してきましたが、化学療法の害としての副作用の存在は患者側及び医療者側もその使用には躊躇いたします。その一つの理由として、従来の予後因子に基づく化学療法の選択では、化学療法が有用でない症例に対しても治療が行われている可能性があります。そこで、近年ではマイクロアレイなどの遺伝子解析の研究が進み、いくつかの乳癌多遺伝子アッセイが市販されており実用化されています。乳癌では主にホルモン受容体陽性HER2陰性早期乳癌に対して内分泌療法に対する化学療法を追加あるいは化学療法を省略した場合の予後への影響が検討されています。そこで本セミナーでは、様々な研究結果を整理し、実際の臨床現場ではどのようにして乳癌多遺伝子アッセイの一つであるオンコタイプDXでの再発スコアとリンパ節転移状況、閉経状況等を組み合わせて周術期の治療選択が行われているのかについての知見を共有できればと思います。



# オンコタイプDXが変えたHR陽性、 HER2陰性早期乳がんの周術期治療

国立がん研究センター東病院 乳腺外科 科長

大西 達也

---

## 略 歴

2003年4月 慶應義塾大学 外科学教室

2006年5月 慶應義塾大学 一般・消化器外科学教室

2016年4月 国立がん研究センター東病院

2019年8月 同病院乳腺外科科長

### 資格：

日本外科学会指導医・専門医

日本乳癌学会乳腺指導医・専門医

検診マンモグラフィ読影認定医師

乳房再建用エキスパンダー／インプラント責任医師

## 抄 録

ホルモン受容体陽性・HER2陰性早期乳癌における術後化学療法の適応は、従来、腫瘍径やリンパ節転移の有無、組織学的グレードなどの病理学的因子を基に判断されていた。しかし、これらの因子のみでは化学療法の有益性を正確に予測することが難しく、近年、多遺伝子アッセイの活用が推奨されている。

オンコタイプDX乳がん再発スコアプログラム (Oncotype DX) は、21 遺伝子の発現解析によりリカレンスコア (RS) を算出し、再発リスクおよび術後化学療法の有効性を予測する検査である。TAILORx 試験では、RS 11-25 の患者では化学療法省略の非劣性が示されたが、RS 16-25 の閉経前女性では化学療法による遠隔転移リスクの低下が確認された。また、RxPONDER 試験では、リンパ節転移1-3個陽性の閉経後女性ではRS 25以下で化学療法省略が可能であることが示された一方、閉経前女性ではRSにかかわらず化学療法の上乗せ効果があることが確認された。

これらのエビデンスを踏まえ、Oncotype DXは乳癌診療ガイドラインにおいて強く推奨され、2023年9月には保険収載された。本講演では、当院におけるOncotype DXの実施状況、RS分布、化学療法適応基準およびレジメンの選択について報告し、Oncotype DXの臨床導入が術後治療方針に及ぼした影響について考察する。



## セミナー4.

共催：アストラゼネカ株式会社

## セミナー 4

---



司 会

埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科 教授  
大崎 昭彦

---

### 略 歴

#### 【学歴及び職歴】

- 1986年 広島大学医学部医学科卒業
- 1993年 広島大学大学院医学系研究科修了 博士(医学)取得  
国立病院九州がんセンター 外科医師
- 1997年 広島大学原爆放射能医学研究所 助手
- 2000年 米国留学(文部省在外研究員)  
スローン・ケタリンがんセンター、ダナ・ファーバーがん研究所
- 2002年 広島大学原爆放射線医科学研究所 助手(研究所の改組に伴い名称変更)  
広島大学医学部附属病院 講師
- 2003年 広島大学原爆放射線医科学研究所 講師
- 2006年 埼玉医科大学病院乳腺腫瘍科 助教授
- 2007年 埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科 准教授  
埼玉医科大学病院乳腺腫瘍科 診療科長/准教授
- 2011年 埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科 教授
- 2012年 埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科 診療部長/教授  
現在に至る

#### 【所属学会】

- 日本外科学会(専門医、指導医)、日本乳癌学会(乳腺専門医、指導医、評議員)
- 日本乳癌検診学会(評議員、監事)
- 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会(編集委員)
- 日本がんサポーターケア学会(評議員)、ASCO(正会員)



## 司会の言葉

がんの分子標的薬は、本邦では2001年にトラスツズマブが転移性乳癌 (metastatic breast cancer : MBC) に対する治療薬として承認されて以来、インパクトのある多くの新薬が承認されています。がんにおける新薬の開発は進行・再発がんに始まり、効果がある薬剤はフロントラインに移っていくという流れは昔も今も変わっておらず、MBCに対する治療戦略は極めて重要な領域と言えます。乳がんは1999年にPerouらにより分子生物学的に異なる内因性サブタイプに分類されることが発表されて以来、ホルモン受容体陽性乳がんはluminalタイプという言い方が定着してきました。乳がん治療全体を見渡すとトリプルネガティブ乳癌、luminal乳がんの薬物療法が今、最も興味のもたれる領域で、luminalタイプ乳がんにおいてはCDK4/6阻害薬、AKT阻害薬、抗TROP2抗体-トポイソメラーゼI阻害薬複合体などが注目されています。CDK4/6阻害薬、PARP阻害薬、経口フッ化ピリミジンは、術後補助療法としてガイドラインにも載るエビデンスも出てきておりますが、MBCにおける治療の組み立て方についてはまだcontroversialな部分が多く、またそれが治療医の腕の見せ所ともいえると思います。本日は、有賀先生にluminal MBCのkey drugのdata reviewと先生ご自身の治療戦略の組み立て方についてお話しいただけると伺っております。皆様の日常診療の一助となることを期待しております。

## セミナー 4



# Luminal MBC —新たな戦略の幕開け—

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 総合外科学分野 教授  
有賀 智之

## 略 歴

平成 3年 4月 東京医科歯科大学医学部医学科入学  
平成 9年 3月 同 卒業  
平成 9年 4月 東京医科歯科大学第二外科入局 研修医  
平成10年 1月 東京都立墨東病院 麻酔科 研修医  
平成10年 7月 中野総合病院 外科 医員  
平成12年 7月 川口工業総合病院 外科 医員  
平成14年 4月 東芝病院 外科 医員  
平成15年 9月 東京医科歯科大学 腫瘍外科(乳腺グループ) 医員  
平成17年 10月 東京都立駒込病院 外科(乳腺) 非常勤  
平成23年 8月 東京都立駒込病院 外科(乳腺) 医長  
平成29年 9月 東京都立駒込病院 遺伝子診療科 医長併任  
令和 4年 10月 東京都立駒込病院 外科(乳腺) 部長  
令和 6年 1月 東京都立駒込病院 院長補佐(医療連携担当)・プレストセンター長  
令和 6年 10月 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 総合外科学分野 教授

### <学会・専門医>

日本外科学会：指導医・専門医  
日本乳癌学会：評議員・指導医・専門医  
日本遺伝性腫瘍学会：理事・評議員・指導医・専門医・コーディネーター  
日本がん・生殖医療学会 認定がん・生殖医療ナビゲーター  
日本オンコプラスチックサージェリー学会施設責任医師  
日本乳腺甲状腺超音波医学会(JABTS) 評議員  
京都乳癌研究ネットワーク(KBCRN) 理事  
乳腺画像研究会 世話人  
東京医科歯科大学臨床准教授  
検診マンモグラフィ読影認定医(AS)  
乳がん検診超音波検査判定医(A)  
日本がん治療認定医機構認定医  
日本癌治療学会会員  
日本癌学会会員  
日本人類遺伝学会会員  
米国臨床腫瘍学会(ASCO) 会員  
欧州臨床腫瘍学会(ESMO) 会員

### <学会・委員会>

日本乳癌学会  
➢ 医療安全委員会 副委員長  
➢ 規約委員会 委員  
一般社団法人・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 (JOHBOC)  
➢ HBOCガイドライン 乳癌領域統括委員  
➢ 教育部会 会長  
日本がん・生殖医療学会  
➢ 乳癌患者の妊娠・出産と生殖医療に関するガイドライン 作成委員  
日本癌治療学会  
➢ 思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン 作成委員  
日本遺伝性腫瘍学会  
➢ 広報委員会 委員長  
➢ 専門医・HTC/FTC 制度委員会 委員  
➢ 遺伝性腫瘍セミナー委員会 委員  
➢ 将来検討委員会 委員  
➢ 財務委員会 委員  
➢ 多遺伝子パネルによる遺伝学的検査を用いた遺伝性腫瘍の診療・管理指針 領域リーダー  
一般社団法人・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構・厚労科研櫻井班合同  
➢ 市民向けHBOCガイドライン作成委員

## 抄 録

ホルモン受容体 (HR) 陽性、HER2 陰性の再発・進行乳癌 (Luminal MBC) は、その治療戦略が近年大きく進展しています。特に一次治療として、CDK4/6 阻害剤とホルモン療法の併用が標準治療として確立され、高い臨床的有効性を示しています。しかしながら、長期的な治療においては耐性の発現が不可避であり、二次治療以降の戦略が極めて重要な課題となっています。

本セミナーでは、ホルモン剤・CDK4/6 阻害剤に対する耐性化のメカニズムに焦点を当て、現在明らかになりつつある耐性獲得の分子機構について解説します。ホルモン剤・増幅CDK4/6 阻害剤の耐性化には、ESR1 の変異、転写因子の増幅、Rb タンパクの不活化、CCNE1 の過剰発現、PI3K/AKT/mTOR 経路の活性化など、複数の機序が関与していることが報告されており、それに基づいた治療選択の重要性が高まっています。

現状の日本において注目されているのが AKT パスウェイを標的とした新規治療薬であるトルカブの開発と臨床応用です。AKT シグナルの過活性化は、CDK4/6 阻害剤に対する耐性の主要な要因の一つと考えられており、AKT 阻害剤の併用が新たな治療選択肢として期待されています。本セミナーでは、これらの耐性メカニズムを踏まえ、今後の治療開発の方向性について最新のエビデンスを交えながら議論を行います。

本講演が、Luminal MBC の治療最適化に向けた新たな視点を提供し、日常臨床における治療戦略の一助となることを願っております。



# セミナー5.

共催：日本イーライリリー株式会社

## セミナー 5

---



司 会

赤心堂病院 乳腺外科部長

黒田 徹

---

### 略 歴

- 1985年 埼玉医科大学卒業
- 同年、埼玉医科大学総合医療センター第二外科（一般消化器外科）入局
- 1990年 国立西埼玉中央病院 外科勤務
- 1993年 埼玉医科大学総合医療センター、救命救急科勤務
- 1995年 赤心堂病院、外科勤務
- 2004年 同院、外科診療部長
- 2023年 同院、乳腺外科部長

### 資格

- 日本乳癌学会専門医・指導医
- がん治療認定医
- 日本外科学会専門医
- 消化器内視鏡専門医

## 司会の言葉

乳がん領域ではここ数年で様々な薬剤が承認、臨床使用される状況となり複雑化しております。CDK4/6阻害剤の発売以降、特にその流れが顕著かと感じており日々情報をアップデートが必要な状況となっております。その中でHR+HER2-乳癌では、CDK4/6阻害剤の併用が日本乳癌学会 乳癌診療ガイドラインでも閉経前後に関わらず一次内分泌療法として推奨されているのは周知の通りかと思っております。今後CDK4/6阻害剤の臨床結果を凌駕することがない限り、この状況は変わらないかと思っております。アベマシクリブにおいてはMONARCH2及び3において転移再発乳癌での有効性は元より、monarchEにて再発高リスクへの術後薬物療法としても承認が得られ現在では広く臨床で使用されています。いずれの試験においてもアベマシクリブを長期で投与することになり、有効性と共に安全性の担保も重要となります。そこで今回は井口先生にご講演頂き、ご参加の先生方もアベマシクリブにつきましては臨床経験豊富な薬剤ではあるかと思っておりますが、今回のシンポジウムを通じてあらためて再確認・再発見できる機会となればと思います。ご参加される皆様に少しでもお役に立てることを期待しております。



## HR陽性HER2陰性乳癌治療の進歩と ベジニオの位置づけ

金沢医科大学 乳腺外科 准教授  
金沢医科大学病院 乳腺センター長  
井口 雅史

### 略 歴

#### 学 歴

1995年 3月25日 金沢大学医学部卒業  
2003年 12月31日 金沢大学医学系研究科(大学院)卒業

#### 免許及び資格

1995年 5月 1日 医師免許証  
1999年 12月 1日～現在 日本外科学会認定医  
2004年 12月 1日～現在 日本外科学会専門医  
2010年 12月 1日～現在 日本外科学会指導医  
2010年 1月 1日～現在 日本乳癌学会専門医  
2015年 1月 1日～現在 日本乳癌学会指導医  
2013年 4月 1日～現在 日本癌治療認定医機構がん治療認定医  
2005年 12月17日～現在 マンモグラフィ読影認定医(A判定)

#### 職 歴

1995年 4月 金沢大学附属病院 第2外科 研修医  
2005年 1月 金沢大学医薬保健学域医学系 がん局所制御学 医員  
2007年 4月 金沢大学医薬保健学域医学系 がん局所制御学 助教  
2009年 4月 金沢大学附属病院 乳腺科 臨床准教授  
2014年 6月 金沢大学附属病院 乳腺科 診療科長  
2018年 7月～現在 金沢医科大学 乳腺・内分泌外科 准教授  
2021年 4月～現在 金沢医科大学病院 乳腺・内分泌外科 診療科長、乳腺センター長

#### 所属学会及び社会における活動

2014年 5月～現在 日本乳癌学会評議員  
2022年 11月～現在 日本乳房オンコプラスチックサージェリー学会評議員  
2007年 7月～2014年 8月 日本乳癌学会診療ガイドライン外科小委員会委員  
2014年 9月～2016年 8月 日本乳癌学会診療ガイドライン外科小委員会副委員長  
2016年 9月～2020年 8月 日本乳癌学会診療ガイドライン外科小委員会委員長  
2014年 9月～2016年 8月 日本乳癌学会資格認定・施設認定地区委員会(中部地区委員)  
2016年 9月～2022年 10月 日本乳癌学会認定委員会委員(中部地区委員)  
2020年 9月～現在 日本乳癌学会定款委員会委員  
2022年 11月～現在 日本乳癌学会診療ガイドライン評価委員会  
2022年 11月～現在 日本乳癌学会総務委員会、会員サービス向上小委員会委員長  
2010年 4月～現在 乳癌懇話会世話人  
2006年 4月～現在 金沢市医師会乳がん検診精度管理委員会委員  
2006年 4月～現在 石川県乳・甲状腺がん検診専門委員会委員  
2010年 9月～現在 石川県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会委員  
2022年 4月～現在 日本専門医機構 金沢医科大学病院 乳腺外科専門研修カリキュラム統括責任者



## 抄 録

乳癌サブタイプの中でも多くを占める HR 陽性 HER2 陰性進行再発乳癌の治療成績の改善は長年の課題であったが、Abemaciclib, Palbociclib といった CDK4/6 阻害剤の登場によって大きく変化してきた。特に Abemaciclib においては、大規模国際共同試験 (MONARCH-2, MONRACH-3) において、進行・再発の1次、2次治療における有効性が確認され、さらに MONARCH-E 試験では再発高リスク群に対する周術期治療として2年間のホルモン療法との併用による有効性を認めた。Heterogeneity の高い Luminal サブタイプにおいても、進行再発ならびに周術期において一貫性のある結果が得られていることは興味深い。

一方で、Abemaciclib の登場は、副作用のマネージメントにおいても大きな影響を及ぼしてきた。QOL を重視する進行・再発乳癌治療においては、これまでは Hortogagyi のアルゴリズムに従って副作用の少ないホルモン療法単剤からの使用が原則であったが、CDK4/6 阻害剤の併用が1次2次治療の標準治療になり、Abemaciclib においては再発高リスク患者において周術期にも2年間の使用することになり、Luminal タイプ進行再発乳癌治療においても、長期間にわたる骨髄抑制、下痢、肝障害、間質性肺炎などのマネージメントは避けては通れなくなった。しかし6年間の Abemaciclib の使用経験で学んだ多くのマネージメント力が、その後に登場する新規薬剤のマネージメントにも生かされており、当院で行っているチーム医療でのアプローチも紹介したい。

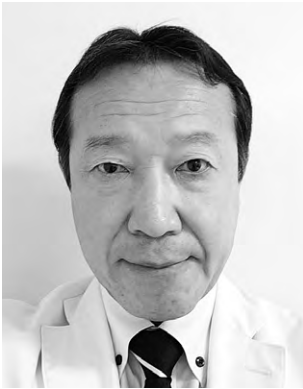


# セミナー *6*.

共催：ファイザー株式会社

## セミナー 6

---



司 会

さいたま赤十字病院 乳腺科部長

櫻井 孝志

---

### 略 歴

#### 学歴・職歴

- 1986年3月 筑波大学 医学専門学群 卒業
- 1986年5月 慶應義塾大学病院 外科
- 1987年5月 水戸赤十字病院 外科
- 1988年5月 国立療養所神奈川病院 外科
- 1989年5月 慶應義塾大学病院 一般消化器外科
- 1992年5月 川崎市立井田病院 外科
- 2006年5月 埼玉メディカルセンター 外科
- 2022年4月 さいたま赤十字病院 乳腺科

#### 資格

- 日本外科学会 専門医, 指導医
- 日本乳癌学会 専門医, 指導医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医, 指導医

#### 所属学会

日本外科学会, 日本乳癌学会, 日本乳癌検診学会, 日本癌学会, 日本癌治療学会, 日本消化器外科学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本内視鏡外科学会, 日本食道学会, 日本内分泌外科学会, 日本臨床外科学会, 日本オンコプラスチックサージャリー学会 など

## 司会の言葉

セミナー6の司会を務めさせていただきます。

世界初のCDK4/6阻害薬が我が国で使えるようになってからはや丸7年が経過しました。

その間には各薬剤の長期OSの結果やPFS2の考え方・PD後の治療戦略についてもデータが得られてきており、各薬剤の副作用プロファイルなども含めた患者さんへの薬剤選択が行われるようになりました。

まだまだわからない点や、理論や薬剤の進歩に対する必要な検査や治療の提供体制が整いきれていない現状もありますが、新たな知見をもとに分子標的薬を用いた治療戦略について学んで行きたいと思います。

## セミナー 6



### CDK4/6 阻害剤が見せた 再発乳がん治療の景色

東京都立病院機構がん・感染症センター  
都立駒込病院 外科(乳腺) 医長

増田 紘子

## 略 歴

### 学歴

大学：高知大学医学部 2003年(平成15年)卒業  
博士課程：岡山大学医学部医歯薬学総合研究科  
腫瘍制御学 2012年卒業

### 職歴

2003年5月 岡山赤十字病院 初期研修医  
2005年4月 岡山大学病院 後期外科研修医  
2005年7月 総合病院姫路聖マリア病院 後期外科研修医  
2007年4月 国立病院機構 大阪医療センター 乳腺専修医  
2009年4月 岡山大学病院 乳腺外科医師  
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腫瘍制御学 院生  
2011年6月 The University of Texas, MD Anderson Cancer Center  
Breast Medical Oncology, Postdoctoral fellow  
2013年4月 国立病院機構 大阪医療センター 外科スタッフ  
2015年7月 昭和大学医学部 乳腺外科 助教  
2018年8月 昭和大学 先端がん治療研究所 兼任  
2019年4月 昭和大学医学部 乳腺外科 講師  
2025年1月 東京都立病院機構がん・感染症センター 都立駒込病院 外科(乳腺) 医長  
現在に至る

### 専門

乳腺・内分泌外科、臨床腫瘍学  
日本外科学会指導医  
日本乳癌学会指導医  
日本癌治療学会 認定医  
遺伝性腫瘍腫瘍専門医  
検診マンモグラフィ読影認定医  
日本乳癌学会評議員  
日本癌治療学会代議員

### 受賞歴

2010年 My Oncology Dream Award 賞 日本対がん協会、MD Anderson 共催  
2013年 ASCO Merit Award: Bradley Stuart Beller Special Merit Award (American Society of clinical Oncology)  
2015年 第21回日本乳癌学会研究奨励賞 術前化学療法治療抵抗性トリプルネガティブ乳がんの検討、細分化  
2016年、2018年 GBCC Good poster Award  
2018年 Mansfield-PhRMA Research Scholars Program 2018 Scholar 選任  
2020年 Society for Translational Oncology Fellows' Forum (STOFF) 選任  
2022年 Taipei International Breast Cancer Symposium invited speaker  
2023年 ESMO Asia Good Poster Award Asako Tsuruga, Hiroko Masuda

## 抄 録

サブタイプ毎に異なる治療戦略が選択される再発乳がんにおいて、HER2陽性では抗HER2療法の到来により予後の改善が報告されている中、元々予後が良いとされてきたホルモン受容体陽性においても、その改善が課題であった。

2015年 ASCO で発表された PALOMA-2 試験により、初の CDK4/6 阻害剤である パルボシクリブ がその有効性を示し、分子標的薬と内分泌療法併用の治療戦略が標準治療となった。新規薬剤の到来により、後治療を含めてホルモン受容体陽性乳がんは多様な治療戦略を選択することが可能となった。近年では臨床試験の結果に加えてリアルワールドエビデンスの報告が積極的に行われ、実臨床における有用性も明確となり、それらのデータを参考に患者個々に応じた治療選択が議論されている。内分泌療法に分子標的治療薬を併用することでより長い内分泌療法での病状維持や QOL を保ったうえでの治療継続、抗がん剤までの期間の先送りが可能となり、OS 延長が期待されている。

本セミナーでは主に臨床試験や日本からの報告を含むリアルワールドエビデンスをレビュー、解釈し、CDK4/6 阻害剤登場により見ることができた再発乳がん治療の景色について考察してみたい。

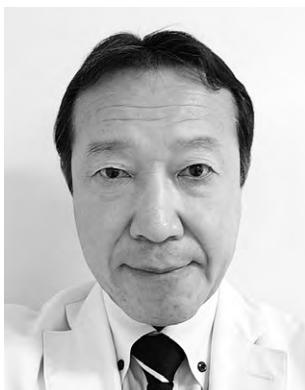




**Closing Remark**

## Closing Remark

---



埼玉乳がんケア・サポートグループ 理事長  
さいたま赤十字病院 乳腺科部長  
**櫻井 孝志**

---

### 抄 録

本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

近年乳がん薬物療法においては、ICI・ADC・CDK阻害やPI3K/AKT/PTEN阻害剤など、さまざまな薬剤が使用可能となり、Biomarkerや遺伝子プロファイルに基づいた治療戦略が可能となりました。しかしながら新しいタイプの薬剤ではその使い方や副作用について特徴的なものがあり、患者さんに安全に届けるためにはそれなりの注意と副作用対策が必要とされます。本日の講演がそれら薬剤に対する知識の整理の一助となりますようお願いしております。

また手術療法においても予防切除や乳房再建・RFA・鏡視下・ロボットと多彩なアプローチがなされてきており、どのように患者さんに活用してゆくのか、選択肢が広がってきております。

乳がん治療においては、乳腺科医や腫瘍内科医のみでなく、循環器や呼吸器科医・その他さまざまな診療科医の協力と看護師さんや薬剤師さん・SWなどとの連携が必須となります。本グループの皆様がより良い治療を埼玉県多くの患者さんに届けられることを切に願っております。

## セミナー共催企業一覧 (プログラム順)

---

第一三共株式会社  
中外製薬株式会社  
エグザクトサイエンス株式会社  
アストラゼネカ株式会社  
日本イーライリリー株式会社  
ファイザー株式会社

## 広告掲載企業一覧 (五十音順)

---

エーザイ株式会社  
MSD 株式会社  
協和キリン株式会社  
ギリアド・サイエンシズ株式会社  
大鵬薬品工業株式会社  
日本化薬株式会社  
ファイザー株式会社